

2015年6月28日～7月8日まで、ドイツ連邦共和国のボンで第39回世界遺産委員会が開催されました。

世界遺産登録数

新規登録遺産数

分類別合計

文化遺産：23件

802件

自然遺産：0件

197件

複合遺産：1件

32件

総数

1,031件

危機遺産リスト登録数

リスト入り3件

危機遺産 総数
48件

リスト脱した1件

◆ 危機遺産リスト入りした遺産

- ① サナアの旧市街【イエメン共和国】
- ② 城壁都市シバーム【イエメン共和国】
- ③ 円形都市ハトラ【イラク共和国】

◆ 危機遺産リストを脱した遺産

- ① ロス・カティオス国立公園【コロンビア共和国】

遺産保有国数と登録数

◆ 新しく世界遺産保有国となった国

新しく、ジャマイカとシンガポール共和国が世界遺産保有国となり、2015年7月現在、**163の国と地域**に世界遺産が存在します。

◆ 上位遺産保有国と保有遺産数

001. イタリア共和国【51件】
002. 中華人民共和国【48件】
003. スペイン【44件】
004. フランス共和国【41件】
004. ドイツ連邦共和国【40件】

日本の遺産数は19件で、11番目に世界遺産を多くもつ国である。



明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業

Sites of Japan's Meiji Industrial Revolution: Iron and Steel, Shipbuilding and Coal Mining

文化遺産

登録年

2015年

登録基準

(ii)(iv)

▶ 日本の急速な近代化に貢献した産業遺産群

日本は幕末から明治にかけて、製鉄・製鋼、造船、石炭産業といった重工業において急速な産業化を成し遂げた。1850年代から1910年の約50年という類まれなスピードで、西洋の技術や知識を幅広く吸収し、日本の伝統文化と融合させながら、実践と応用を経て産業システムとして構築していった。それは**非西洋地域で初めて、かつ極めて短期間のうちに**、飛躍的な発展を遂げたという点において、世界史的にも特筆されるべき価値とされる。

そのきっかけとなったのは、1840年に起こったアヘン戦争での清の敗戦や、ペリー提督が率いるアメリカ極東艦隊の入港である。欧米列強の脅威に危機感を募らせた諸藩の武士たちは、海防強化の必要性を痛感した。特に薩摩、長州、佐賀藩などは造船や大砲の製造にいち早く取り組んでいる。そして徳川に代わる新政府が誕生したなかで、石炭をエネルギー源とする鉄や蒸気の時代になった。

かつて船は風力という不安定な要素に頼っていたが、蒸気を導入すれば自在に操作できる。幕末に開港した長崎では、蒸気船を造るための造船所や故障した際に修理するためのドックなどが築かれた。また造船や大砲の製造などに欠かせない鉄づくりのための反射炉(鉄を溶かす溶解炉)が作られるなど、各地で様々な試行錯誤が続けられた。それらの製造の動力源や燃料となったのが「黒いダイヤモンド」とも呼ばれた石炭である。

構成資産は九州、山口を中心に全国8県11市23資産に分散して立地している。相互に密接な関連性があり、複数の構成資産でひとつの普遍的価値をなす**シリアル・ノミネーション**で登録されている。



最盛期の1960年には5千人超の人口がいた端島(通称軍艦島)

産業化は段階的に進んでいった。第一段階は幕末期で、製鉄や造船の試行錯誤期であった。各藩が西洋の技術書をもとに、間接的に知識を得ながら伝統的な日本の技術と組み合わせて産業化を進めた。第二段階は、明治時代に入ってから1870年代前半で、西洋技術及びそれを実践するための専門知識を導入した時期である。最終段階である明治後期(1890～1910年)の第三段階においては、国内に専門知識が蓄積されたことで、西洋技術を改良して日本のニーズや社会の伝統に適合させ、本格的な産業化が達成された。

一連の産業化を成し遂げた陰には、多くの有能な人材の活躍があった。幕末期に来日したスコットランド出身の商人グラバーもそのひとりである。長崎港を見下ろす地に居住地を構え、日本最古の木造洋風建築ともされるその住まいでは、幕末志士たちとの交流が行われ文化や技術交流の拠点となった。グラバーは西洋の採炭技術を導入して、長崎県の高島に日本最初の蒸気機関による竪坑を開発したほか、造船、鉄道など多岐に渡る分野で大きな功績を残した。一方、長州藩(山口県)の吉田松陰は、自力で産業近代化の実現を図ろうと「松下村塾」で説き、指導を行った。その教えを受け継いだ塾生の多くが、のちの日本の近代化の過程で重要な役割を担った。ほかにも、幕府の葦山代官であり「葦山反射炉」の建造を指揮した江川英龍や、大橋(釜石)において日本で初めて洋式高炉による出鉄に成功した盛岡藩士の大島高任、福岡出身の実業家で「三池炭鉱」の採炭技術の近代化を進めた團琢磨^{だんたくま}などがある。

なお、老朽施設の保全などさまざまな課題も指摘されている。最も老朽化が進み、保全が急務なのは「軍艦島」の通称で知られる「端島炭坑」である。ほかにも、構成資産には「八幡製鐵所」や「長崎造船所」、「三池港」のような、現役で稼働中の施設が含まれることから、そうした資産への観光対策や保全計画も今後の課題である。



万田坑

『明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業』の構成資産(8エリア)

萩	幕末に産業化を目指した萩(長州)藩による反射炉やたたら製鉄遺跡など。萩城下町や、吉田松陰が主宰した私塾である松下村塾も含む。
鹿児島	薩摩藩主・島津斉彬が幕末に興した近代化事業である「集成館事業」に関する一連の施設。工場群跡や機械工場、炭釜跡など。
葦山	葦山代官である江川英龍が幕府に進言して築いた大砲鑄造炉(葦山反射炉)。日本で唯一現存する実用反射炉である。
釜石	鉄の連続生産に成功した、現存する日本最古の洋式高炉跡(橋野高炉跡)。
佐賀	佐賀藩が幕末に設置した、海軍の人材育成及び蒸気船等の船の修理・造船施設(三重津海軍所跡)。
長崎	近代造船産業の発祥である長崎造船所、日本最初の洋式採炭が行われた高島炭坑、海底炭鉱の島である端島炭坑、文化交流の場となった旧グラバー住宅からなる。
三池	宮原坑、万田坑などから産出される石炭は、高品位で豊富な埋蔵量を誇り国内外の石炭需要を担った。石炭を輸送するための鉄道敷跡や三池港も含まれる。
八幡	日本初の鉄鋼一貫製鉄所である、官営の八幡製鐵所が築かれた。登録されたのは旧本事務所、修繕工場、旧鍛冶工場、送水施設。